

令和5年度 とやま新時代創造創造プロジェクト学習推進事業  
**実施報告書【地域連携実践重点校用】**

|      |              |
|------|--------------|
| 学校番号 | 35           |
| 学校名  | 富山県立南砺福野高等学校 |

|                            |   |  |
|----------------------------|---|--|
| 重点課題                       | B 地域社会を連携したキャリア教育の充実および人材育成   |  |
| 課題設定の趣旨                    | <p>〔農業環境科〕<br/>         地域の企業と連携し、地元の食品製造を体系的に学ぶ。また、富山県産の原材料を使用し、生産から加工流通まで一貫した学習活動を行うとともに、付加価値の付与や6次産業化の知識・技術の習得を図る。主に味噌、パンの製造、販売実習を年間を通して行う。</p> <p>〔福祉科〕<br/>         地域の福祉施設と連携し、介護実習や交流活動等を行うことで、様々な福祉専門職の仕事や職業人としての在り方を見聞きし、将来の生き方について主体的に考える態度及び職業観を育成する。</p>  |  |
| 中長期ビジョンを実現するための今後の重点事項     | <p>〔農業環境科〕<br/>         農業環境科では、農業の社会的役割、経済的機能を理解させ、将来、地域農業の発展・向上に寄与できる農業経営者や農業技術者として必要な知識や技術を習得させることを方針としている。課題として、農業体験の少ない生徒が多く、基礎・基本の確実な定着と体験的な学習を重視し、また反復練習をすることにより専門知識の理解を深め、技術の定着を図る必要がある。そのための方策として、次の2点が求められている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 専門科目の充実と時代に沿った経営知識、技術を体系的に習得する。</li> <li>2 地域や企業と連携した教育活動によるキャリア教育の充実</li> </ol> <p>〔福祉科〕<br/>         福祉科では、福祉に関する専門的な知識や技術を学ぶ機会を積極的に設けることにより、社会福祉の基本である福祉マインドの育成、多様化する福祉ニーズに柔軟に対応できる創造的な能力と実践的な態度の育成を学科理念に据えている。高齢者や障がい者など、多様な人々の生活を支える人材の育成が求められているが、生徒の多くは生活体験が少ないというのが実態である。よって、生徒には校外での実習、交流活動等において体験的活動の機会を増やし、多くの経験を積み、柔軟で幅広い視野や職業観をもたせる必要がある。そのための方策として、地域の福祉施設と連携した教育活動の充実を図ることが挙げられる。</p>  |  |
| 実施内容<br>(具体的に記入する)         | <p>〔農業環境科〕<br/>         (目的)地域の食文化に目を向けた食品製造を体系的に学ぶとともに、富山県産の原材料を使用し、生産から加工流通まで一貫した学習活動を行うことで、付加価値の付与や6次産業化の知識・技術の習得を図る。<br/>         (実施内容)<br/>         ・12月中旬～3月下旬〔味噌の仕込み 計600kgほどの仕込み〕<br/>         ・5月～9月…パンの製造実習<br/>         ・6月…天地返し実習<br/>         ・7月…食品衛生責任者講習会受講<br/>         ・9月～1月…ジャムの製造実習、商品化(砺波厚生センター協力のもと)<br/>         ・12月…パッケージング講習会(ホワイト食品株式会社、有限会社スクラムアートワークスの協力のもと)<br/>         ・11月～12月…パッケージおよび販売実習(福野 歳の大市にて販売)<br/>         外部講師の構さん、ホワイト食品株式会社、有限会社スクラムアートワークス、砺波厚生センターと連携しながら、商品化した。また、ジャムに関しても商品化し、地元行事にて販売をした。</p> <p>〔福祉科〕<br/>         (目的)福祉に関する体験的な学習を多様な福祉現場において行い、知識と技術を統合させ、福祉に携わる者としての役割を理解するとともに、福祉ニーズに対応できる実践力を身に付ける。<br/>         (実施内容)<br/>         ・各学年における目的及び内容に沿って、介護実習を行った。(1年次10日間、2年次24日間、3年次27日間)<br/>         ・高齢者デイサービスセンター、特別養護老人ホーム、認知症対応型共同生活介護、障害者支援施設など、多くの福祉施設と連携し、実習前には実習内容等を施設担当者と綿密に打ち合わせを行った上で、介護実習を実施した。<br/>         ・介護実習及び交流活動の対象者(高齢者、障がい者など)の状況に応じたレクリエーションや活動を生徒が主体となって計画立案し、準備、当日の運営等に当たった。</p> |  |
| 取組の成果<br>(プロジェクト学習推進の観点から) | <p>〔農業環境科〕<br/>         今年度は、本校で栽培したブランド米の「富富富」と生徒が栽培した大豆を一部使用し、富山県産にこだわった味噌製造を行った。製造から販売を通じた6次産業化を体系的に学ぶことで生徒の学習意欲の向上に繋がるとともに、地元企業への就業意欲を育むことができた。今回の取り組みで、生徒たちは非常に意欲的に取り組んでおり、放課後や早朝にも味噌づくりに取り組む姿も見られた。また、今年度は有限会社スクラムアートワークスの中嶋様からパッケージデザインの重要性を学ぶことができた。<br/>         今後も味噌やパンは毎年改良を重ね、福野高校のブランド品として確立させることを目標とし、パッケージに関しても生徒の意見を取り入れながら毎年検討を重ねていくことで課題発見・解決能力を育てていくことができる。</p> <p>〔福祉科〕<br/>         地域の福祉施設と連携し、校内で学んだ知識・技術を実践できる場や機会を設けたことによって、目標をもって意欲的に取り組む生徒の姿が多く見られた。また、生徒の達成感や今後の課題を明確にすることにつながったように思われる。特に3年生は、3年間を通じて学んだ福祉や介護の知識・技術、コミュニケーションスキルなどを統合して、担当した受け持ち利用者の支援計画を立て、施設職員のもと支援を実践させていただいたことで、福祉現場で働くことのやりがいを感じ、職業人としての在り方を模索することができたようである。生徒自身の課題発見・解決能力はもちろんのこと、福祉の対象者の課題発見・解決ができる力も育むことができる。また、地域住民の一員として、福祉の学びをどのように活かし実践するかを考える意識を高めることにもつなげることができる。</p>   |  |
| 対象者(学年・人数など)               | 農業環境科2、3年野菜・草花類型(45名) 福祉科1～3年(88名)  |  |
| 実施実績                       | 4月  |  |
|                            | 5月  | パン製造実習 介護実習  |
|                            | 6月  | 味噌の天地返し、切り返し実習、パン製造実習 介護実習                             |
|                            | 7月  | パン製造実習、食品衛生責任者講習会受講、富山県日本学校農業クラブプロジェクト発表会参加(最優秀賞)、介護実習 |
|                            | 8月  | 日本学校農業クラブ北信越ブロック大会プロジェクト発表会参加(優秀賞) 介護実習                |
|                            | 9月  | パン製造実習、ジャム製造実習 介護実習                                    |
|                            | 10月   | パン製造、味噌の手入れ実習 介護実習                                     |
|                            | 11月   | ジャム製造実習、販売実習 地域活動支援センター利用者との交流活動                       |
|                            | 12月   | 味噌のパッケージング講習会、味噌の商品開発および仕込み実習、販売実習 介護実習                |
|                            | 1月  | 味噌の仕込み実習、とやま探究フォーラム参加                                  |
|                            | 2月  | 味噌の仕込み実習   |
|                            | 3月  | 味噌の仕込み実習 介護実習  |